

杉本順一* 日 本 植 物 雑 記 (二)

J. SUGIMOTO* : Notes on Flora of Japan (2)

(12) **テリハヤマトツジ** (中井, 1922) 中井博士が独立種として、ごく短い記載があるだけである。幸に牧野標本館に三重県度会郡島津村古和浦産の本種に該当する標本がある。1906年6月13日桑名権之進が採集にかかる野生品である。ヤマツツジに非常によく似ているが、中井博士の記載の通り、葉は卵形で毛が少なくて光沢が多いものである。花は大きい赤色で、葯が紫色の点が著しい特長である。ヤマツツジの変種として改める。

(13) **イヨツツジ** (中井, 1927) 本種も中井博士が独立種として詳しく記載のあるものである。牧野標本館に3枚の標本がある。1937年6月愛媛県松山で宮内長次が採集したものである。この標本は中井博士の記載と一致するもので、非常によくヤマツツジに似ている。強い区別点として花冠の裂片が幅広く円形を呈する。それだけでは区別として薄弱であるが、葯の色が赤色である。松山地方に多く生ずるというので、地方的のヤマツツジの一変種と考える。

(14) **ウラゲムラサキヤシオ** (杉本, 1972) ムラサキヤシオは葉裏の粉白を呈するウラジロミヤマツツジ *f. hypoleucum* (HONDA) HARA が知られているが、臘質の分泌による粉白色である。牧野標本館に3点の標本には葉裏に細毛を密生して白色を呈する一品がある。上記と異なる新品種とする。牧野博士自ら羽後八幡平と早口とで1927年採集したものと、採集者不明の越後妙高山のものがある。拙著新日本樹木総検索誌で変種としたものであるが、品種に改める。

(15) **ピロウドレンゲツツジ** (杉本, 1972) レンゲツツジにも葉裏に臘質に被われて白色を呈するウラジロレンゲツツジ *f. hypoleucum* (NAKAI) HARA がある。しかしここに記すものは葉裏に細毛を密生して白色を呈するものである。牧野標本館に牧野博士自ら1940年長野県小諸で採集した標本がある。前記の拙著ではレンゲツツジの変種としたが、ここでは品種に改める。

(16) **ホソバトウツツジ** (杉本, 1972) 薩南列島から琉球列島にわたり、トウツツジが自生して、変化があり、ケラマツツジ、カザンジマの名も同種中に含まれるもので、花などの形で園芸的に区別された。しかし萼片の形にも変化があって、牧野標本館の標本中に奄美大島産2点は萼片が著しく長い。採集者名は不明で、1910年のものと1915年のものとある。ツツジ科の分類には萼片の形態が大切な標徴とされている。たとえばサラサドウダン属、ツリガネツツジ属、ツガザクラ属などである。しかし中には同種のもので萼片に差異の起きるウラジロヨウラクのようなものがある。奄美にはこれと母種との中間形のものを持つ個体もあるので、本品をトウツツジの一品種とする。

* 静岡県静岡市八幡5丁目14の3 5-14-3, Yawata, Shizuoka City.

(17) **ヒロハホンシャクナゲ** (杉本, 1972) 牧野標本館の標本中で、葉が短く幅広い一形がある。牧野博士が土佐白髪山で1934年8月採集にかかり、花は付けていないけれど、葉の毛の性質はホンシャクナゲに一致するので、その一品種と考える。武田博士が和文で発表したオキシクナゲとは葉形が違ふようである。

(18) **クセンバツツジ** (杉本, 改称) 前記拙著385ページ, 510ページでクセンバツツジと発音をまちがえたので改める。佐賀県九千部山の一部にサクラバツツジとコバノミツバツツジと混生する場所がある。高梨洋一氏は同所で両者の中間形を発見し、更に花をも得て、両種の自然雑種であることを確めた。この両種は花期が著しく違ふけれども、偶然花が気候影響の狂い咲の間で自然交配されたものと思われる。葉は質と形が全く両者の中間形で、落葉性又は半落葉性である。葉が3枚づつ枝先に着く点は両母種とも同一で、コバノミツバツツジは落葉、サクラバツツジは常緑のため、今日まで学者は両者を別のセクションとして分類されていた。花は淡桃色でサクラバツツジと色は同じだが、花冠裂片が少し幅狭の気味である。雄蕊は10本。

(19) **スルガバツツジ** (杉本, 1972) アシタカバツツジは富士山の南側の十里木方面、西側の田貫湖方面に群生し、ヤマバツツジと混生する場所がある。そのような所には両者の中間形を生じ、両者の雑種と推定するものである。三種の区別を表示すると次の如くである。この雑種をスルガバツツジと命名する。

ヤマバツツジ	スルガバツツジ	アシタカバツツジ
葉は大形で広い	葉は中形でやや狭い	葉は小形皮針形
花は大形赤色	花は中大で赤紅紫色	花は小形で紫紅色
雄蕊5本	雄蕊5本, 稀に6本	雄蕊7~9本, 稀に10本

(20) **ビッチュウバツツジ** (杉本, 1972) 牧野標本館に岡山県川上郡八長で吉野善介氏が明治41年5月11日採集した良い標本がある。紙片に「キシツツジよりやや小、著しき濃紅色で美、萼に粘液を分泌するあり、せざるあり一定せず。キシツツジと雑生し、同時期に開花し互に艶を競へり。野生也」とある。ヤマバツツジに比すれば夏葉は皮針形、秋葉はへら状倒皮針形で、花は濃赤色。雄蕊8~10本、萼片は皮針形で長さ8~12ミリ、腺毛を散生する。キシツツジに比すれば、秋葉はずっと小形にして、春葉も薄くて小さい。花は少し小形で濃赤色で、萼片は小形である。本品はヤマバツツジとキシツツジの雑種であることは明かで、他の多くの採集家も認めている。本種を発見した当時はチョウセンヤマバツツジ *R. yedoense* f. *poukhanense* NAKAI と思われたものである。彼とは葉の性質、花色、萼片の形など多くの相違点があるので区別は容易である。

以上は東京都立大学牧野標本館にある豊富な標本を調べたもので、牧野標本館雑記として報告すべきところ、同館の水島正美教授の死去のため同意を得られなかったので、他の研究と併せてこの雑記に組入れたものである。牧野標本館の標本閲覧及び種々助言を頂いた水島正美先生並に牧野標本館の各位に厚く感謝申し上げる。また標本を与えて下さった報文中に記入の各位に対して深く感謝の意を表する。(未完)。

(12) **Rhododendron Kaempferi** PLANCHON, var. **Iusidusculum** (NAKAI)

SUGIMOTO, comb. nov. [New keys to the woody plants of Japan 379 (1972) nom. nud.]

R. lusedisculum NAKAI, Tr. Shr. Indigen. Jap. Proper, 1 (1922), ed. 1, nom. nud. — in Bot. Mag. Tokyo, 38 : 28 (1924) cum descript. brevis. — ed. 2 (1927) 138.

Nom. Jap. Teriha - yama - tsutsuzi.

Hab. Honshu : Prov. Ise, Kowaura, Shimatsu-mura (N. KUWANA, 13, VI, 1906. MAKINO)

(13) **Rhododendron Kaempferi** PLANCHON, var. **ioense** (NAKAI) SUGIMOTO, comb. nov. [l. c. 379 (1972) nom. nud.]

R. ioense NAKAI in Bot. Mag. Tok. 43 : 447 (1927) — HARA, En. Spermatoph. Jap. I (1948) 35.

Nom. Jap. Iyo-tsutsuzi.

Hab. Shikoku : Prov. Iyo, Matsuyama (Choji MIYAGUCHI, VI, 1937. MAKINO)

(14) **Rhododendron Albrechti** MAXIM. f. **canescens** (SUGIMOTO) SUGIMOTO, comb. nov.

R. Albrechti var. *canescens* SUGIMOTO, l. c. 376 (1972) nom. seminud. Folia subtus canescens.

Nom. Jap. Urage-murasaki-yashiro

Hab. Honshu : Prov. Ugo, Hachimantai (T. MAKINO, 1927, the type in MAKINO) ; Hayaguchi (T. MAKINO, 1927, MAKINO) ; Prov. Echigo, mt. Myoko (coll. ? 1944, MAKINO)

(15) **Rhododendron japonicum** SURINGER, f. **canescens** (SUGIMOTO) SUGIMOTO, comb. nov.

R. japonicum var. *canescens* SUGIMOTO, l. c. 378 (1972), nom. seminud. Folia subtus canescens.

Nom. Jap. Birodo-rengé-tsutsuzi.

Hab. Honshu : Prov. Shinano, Komoro (T. MAKINO, 1940, the type in MAKINO)

(16) **Rhododendron scabrum** G. DON, f. **linearisepalum** (SUGIMOTO) SUGIMOTO, comb. nov.

R. scabrum var. *linearisepalum* SUGIMOTO, l. c. 383 (1972) nom. seminud.

Folia oblanceolata vel lineari-oblonga. Caryx lacinis lineari-lanceolata 15 ~ 20 mm longa, 2 ~ 3 mm lata.

Nom. Jap. Hosoba-tootsutsuzi

Hab. Amami Archipelago : Is. Amami-ohshima (13 IV, 1910, Coll. ? the type in MAKINO), Nishi-nakama (XII, 1915, Coll. ? MAKINO)

(17) **Rhododendron Metternichii** SIEB. et ZUCC. var. **hondoense** NAKAI form. **latifolium** SUGIMOTO, f. nov. [l. c. 381 (1972), nom. nud.]

Folia obovata vel obovato-oblonga, 6 ~ 10.5 cm longa, 3.7 ~ 5.4 cm lata. petioli 16 ~ 18 mm longi.

Nom. Jap. Hiroha-hon-shakunage.

Hab. Shikoku : Prov. Tosa, mt. Shiraga (T. MAKINO, VII 1934, the type in MAKINO)

(18) **Rhododendron** × **Takanashianum** SUGIMOTO [l. c. 385 (1972), nom. seminud.], hybr. nov.

R. reticulatum D. DON × *R. tashiroi* MAXIM.

Frutex deciduus vel semideciduus. Rami flavo-cinerei. Folia ad apicem ramuli ternata, anguste ovata apice cuspidata, chartacea primo sparse appresse pilosella demum glabrescentes, subtus glabra, petiolis appresse pilosis.

Flores terminales praecoces alborosei 4 cm in diametro, pedicelli 7 ~ 10 mm longi pubescenti, calyx glaber margine 5-dentatus ciliatis. Stamina 10 inaequalia, filamentis glabris, antheris alboroseis. Stylus 25 mm longus glaberrimus. Ovarium villosum.

Nom. Jap. Kusembu-tsutsuzi.

Hab. Kiushu : Prov. Hizen, mt. Kusenbu (Y. TAKANASHI, 1970, sterile, 1972, with flowers. — the type in Herb. SUGIMOTO)

(19) **Rhododendron** × **ashitakayamense** SUGIMOTO, hybr. nov. [l. c. pp. 377, 509 (1972), nom. nud.]

Frutex deciduus ramosissimus, ramuli pilis squamiformibus dense obtecti. Folia 3 ~ 5-fasciculata terminata, herbacea oblonga, apice acuta, basi cuneata, utrinque opaca pilis adpressis paucè obtecta, 20 ~ 40 mm longa, 8 ~ 15 mm lata, petioli pubescentes 2 ~ 5 mm longi.

Flores 2 ~ 4-fasciculati terminales rubro-purpurei, pedicellis 6 ~ 7 mm longis dense albopilosis. Calycis lobi ovati 3 mm longi albociliati. Corolla 3 cm diametro 26 ~ 29 mm longa 5-lobata, lobis ellipticis apice truncato-rotundatis. Stamina 5 (rarissimeb), filamentis glabris, antheris luteis. Stylo 20 ~ 23 mm longo glaberrimo, ovariumdense hirsutum.

Nom. Jap. Suruga-tsutsuzi.

Hab. Honshu : Prov. Suruga, mt. Ashitakayama (J. SUGIMOTO, 1961), secus lacum Tanuki-ko (J. SUGIMOTO, 13 V, 1972, the type in herbarium SUGIMOTO), Nagaizumi (G. YUYAMA, 1971), Jyurigi (J. SUGIMOTO, 1973).